

# GIS A NEWS LETTER

## 地理情報システム学会ニューズレター 第101号

発行日 ● 2017年3月25日  
発行 ● 一般社団法人 地理情報システム学会

### 目次

新年度を迎えるにあたって	1p
2017年度 GISA学会賞募集	1p
学会からのお知らせ	1p
支部報告	2p

### 【巻頭言：新年度を迎えるにあたって — 25 + 1 の情景 —】

【地理情報システム学会会長 玉川 英則】

何かにつけて時間の区切りを付けたがるのは、日本人（あるいは東アジア人）特有のことのようです（そのせいで、立場上このような一文を書かないといけないことにもなります）。例えば、忘年会という風習はヨーロッパにはないそうですし、年号というものも東アジアの国に限られます（以上、『続ものぐさ精神分析』（岸田秀、中公文庫）参照）。

時間はある意味残酷なものです。時間の経過により小生は、尖点が沢山あった学生時代の体形から、いつの間にか、ほとんどいたるところ微分可能な体形になってしまいました。エントロピーは時々刻々増大します。経済「成長」が常に必要なのは、時間による汚れを洗い流す分の剰余が必然的に求められるからなのでしょう。

さて2016年度には、年次大会の中で25周年の区切りの式典を開催することができました。記念行事の実行委員長をお引き受け頂いた矢野前会長並びに実行委員会の皆様、諸事サポート頂いた小口副会長、大佛事務局長をはじめとする理事・会員の皆様、そして事務局メンバーのご尽力に深謝申し上げます。また、伊藤初代会長、国土地理院の村上院長、慶應義塾大学の徳田先生、株式会社野村総合研究所の鈴木様、株式会社小松製作所の高橋様、韓国・KAGISの李会長の皆様には、お忙しいなか貴重なお話を頂き誠に有難うございました。

また同大会において、以前から交流のあったKAGISに新しく台湾・TGeoを加えた、三機関共同によるIAG' iという国際学会を発足させることができました。両機関のメンバーのご協力に感謝するとともに、今後巡回して担当していくホスト役としての運営をよろしくお願い申し上げる次第です。

一方、新年度ホットな話題として、長らく懸案事項であった、Webによる『理論と応用』の審査システムの導入が予定されています。査読プロセスがよりスムーズに進むことが期待されます。大会発表と同程度活発になるよう、学会誌への投稿を呼びかけたいと思います。先の三機関による国際学会もそうでしたが、今まで中長期的に継続して検討してきたことが形になっていくのは、非常に喜ばしいことです。

もちろん、恒例の活動も充実させねばなりません。今年度の大会は、宮城大学大和キャンパスを会場として10月下旬に行われる予定です。初めての東北開催ということで、支部の皆様には色々お世話になることと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。また、G空間EXPOや地球惑星科学連合

委員会報告	2p
分科会報告	2p
学会後援行事等のお知らせ	2p
事務局からのお知らせ	3p

大会、さらに近年加わった防災学術連携体の活動、近づきつつある「地理総合」必修化に伴う教育現場への協力等、当学会の活躍が期待される場は大いに広がりを見せています。そういう中、若手分科会では、昨年の大会において独自のセッションが企画され、充実した議論が行われたのは頼もしい限りで、今後の展開が楽しみです。

この1月、久しぶりに賛助会員の新規加入がありました。冒頭に話を戻せば、ヨーロッパ的な一直線に未来へと向かう連続軸の上に、東アジア的な区切りが連鎖する螺旋を重ね、GISの歴史を大きく展開させて行く新たな四半世紀へ。新年度はそのスタートです。

### 【2017年度GISA学会賞募集】

【学会賞委員会委員長 河端 瑞貴】

2017年度地理情報システム学会賞の募集を行います。応募資格者および提出物の内容、受賞者選考・決定方法は以下のホームページでご確認ください。

<http://www.gisa-japan.org/awards/>

自薦、他薦を問わず、たくさんのご応募をお待ちしています。選考結果は9月末日までに応募者各位にご連絡いたします。

また、受賞者は、本年10月28日（土）～29日（日）に宮城大学にて開催される第26回研究発表大会で表彰されます。募集部門：

「研究奨励部門」（本年3月末日の時点で35歳以下の者）

「学術論文部門」（提出論文の抜き刷りは、全論文から主要な論文5件に変更になりました）

「ソフトウェア・データ部門」

「教育部門」

「著作部門」

応募期限：2017年7月15日（土）

提出先：地理情報システム学会事務局

### 【学会からのお知らせ】

#### ■ 2017年度一般社団法人地理情報システム学会定時社員総会のご案内

社員総会で議決権を有するのは代議員の方のみですが、他の正会員の方も出席し意見を述べていただくことができます。

日時：2017年5月27日（土）16:00～17:00（予定）

場所：東京大学工学部 14 号館 2 階 144 番教室  
東京都文京区本郷 7-3-1

## ■ 2017 年度学術研究発表大会のご案内 《予定》

2017 年度地理情報システム学会研究発表大会は、10 月 28 日（土）、29 日（日）の両日、宮城大学大和キャンパスにて開催いたします。

（前日に別会場でのプレ大会も検討中です）

発表申し込みの手続き方法などの詳細は、決まり次第、メールニュースや HP にてご案内いたします。

（発表申込スケジュール：予定）

アブストラクト提出：

7 月 1 日（土）～7 月 15 日（土）正午必着

講演論文集用原稿提出：

7 月 1 日（土）～8 月 31 日（木）

## ■ JpGU-AGU Joint Meeting 2017

2017 年度の日本地球惑星科学連合大会は、AGU（米国地球物理学連合）との共同大会です。

会期：2017 年 5 月 20 日（土）～25 日（木）

会場：幕張メッセ及びアパホテル&リゾート東京ベイ幕張

事前参加登録：2017 年 5 月 8 日（月）16:59 まで

詳しくは…

[http://www.jpгу.org/meeting\\_2017/](http://www.jpгу.org/meeting_2017/)

なお、当学会関連セッションは以下のとおりです。

●5 月 20 日（土）午前：

H-TT25 「地理情報システムと地図・空間表現」

●5 月 20 日（土）午後

H-TT20 「Geographic Information Systems」

## ■ 2017 年度初等中等教育における GIS を活用した授業に係る優良事例表彰について（予告）

2017 年度も表記の表彰事業を予定しております。募集要項等の詳細は、近日中に web 等で発表予定です。現在、下記の URL にて 2016 年度実績をご覧ください。

[http://www.gisa-japan.org/news/detail\\_1394.html](http://www.gisa-japan.org/news/detail_1394.html)（要項）

[http://www.gisa-japan.org/news/detail\\_1409.html](http://www.gisa-japan.org/news/detail_1409.html)（結果）

なお、募集受付期間は 2017 年 7 月 1 日（土）～8 月 31 日（木）を予定しています。

## 【支部報告】

### ■ 北海道支部

〔深田 秀実〕

#### <G 空間情報セミナー 開催報告>

北海道支部では、「これからの G 空間社会」をテーマに G 空間情報セミナーを（特非）Digital 北海道研究会、酪農学園大学とともに、平成 28 年 11 月 22 日（火）に開催しました。

基調講演として、東京大学空間情報科学研究センター教授の柴崎亮介先生から「G 空間社会の展望と G 空間情報センターについて」と題して、「企業や市民などが持つ情報や IoT 技術で蓄積されるデータを組み合わせることにより大きな価値が生まれること、また、情報連携により新たな利活用分野の開拓を目指すことが重要」とのお話を頂きました。

続いて、(株) トヨタ IT 開発センターの加藤 整氏から「自動運転システムと自己位置推定/地図生成」、北海道大学大学院農学研究院教授の野口伸先生から、「スマート農業への展開」、国際航業(株)地理空間基盤技術部の鎌形哲稔氏から「スマート農業・スマートなインフラ維持管理の実現における空間情報コンサルタントの役割」という題目で講演を頂き、最後に、北海道農政部農村振興局農村計画課主査の片桐俊英氏

から「GIS を活用した基盤整備と地域支援」と題して、行政組織内の活用事例をご報告頂きました。

当日は、研究者・官公庁職員・関係企業・学生など 110 名の参加があり、関心の高さがうかがわれました。

本支部は、今後も様々な企画を行なって参りますので、会員の皆様のご支援をお願い致します。

### ■ 東北支部

〔井上 亮〕

#### <東北支部研究交流会 開催報告>

2016 年 12 月 12 日（月）、東北大学・青葉山キャンパスにて、東北支部研究交流会が開催されました。今回は、大学の研究者や学生および国土地理院から、計 8 件の話題提供が行われました。航空交通や道路交通の分析や、SNS に掲載された商業施設データや経済センサスなどの統計データを活用した地域分析、リモートセンシングに基づく農地利用実態の把握、ウェアラブルデバイスを活用した観光案内、測位の高精度化によって顕在化する問題の紹介、避難行動学習へのコンピュータゲームの活用など、地理空間情報を活用した多岐にわたる研究テーマについて紹介が行われ、活発な議論が行われました。

## 【委員会報告】

### ■ GIS 資格認定協会

〔大伴 真吾〕

GISCA では、GIS 教育プログラムの認定を行っております。GIS 学会員、GIS 学会の賛助団体の構成員あるいは関連学協会等の会員からの申請により、①過去 1 年以上申請する教育を実施していること、②大学の学部以上の教育レベルであること、③教育内容が地理空間情報分野の知識体系の範囲に入っていることを GISCA で審査します。教育プログラムとして認定されると、向こう 5 年間、GISCA ホームページで公開するとともに、GIS 教育認定プログラム参加証等を発行することができます。GIS 教育認定プログラムの審査は無料で行っておりますので、ぜひこの制度を活用し、有効な GIS 教育機会の増加と PR を図っていただきたく存じます。

認定プログラム参加者は、参加証等を GIS 上級技術者の申請・更新時に教育実績の証拠として利用することができます。

2 月 22 日時点の認定数は次の通りです。

GIS 上級技術者	337 名
GIS 名誉上級技術者	19 名
GIS 教育認定プログラム	29 件

## 【分科会報告】

### ■ 若手分科会

〔相 尚寿〕

#### <若手分科会シンポジウム開催報告>

若手分科会では、2017 年 1 月 22 日に、「災害に対して GIS が果たせる役割」と題したシンポジウムを東京大学本郷キャンパスにて開催しました。

参加者数は、大学教員や大学院生のほか、公的研究機関、民間企業からの参加もあり約 30 名でした。

シンポジウムでは、話題提供として米島万有子先生（熊本大学）から、自身の熊本地震被災体験を通じた防災教育の重要性の説明ほか、被災地での蚊の発生状況の調査報告がありました。また、秋山祐樹先生、小川芳樹氏、佐藤大誓氏（東京大学）から、全国レベルの建物データ整備やビッグデータを用いた人の行動データをもとにした災害時の活用例の提案がありました。さらに、桐村喬先生（皇學館大学）からは、SNS への位置情報付き投稿を活用した観光地内の一時滞在者の空間分布パターン解析の紹介がありました。

以上の話題提供を受け、災害に対して GIS が果たせる役割として、発災前の防災教育や地域学習およびリスク認識のためのツールでの活用、発災直後や復興段階の情報共有ツールとしての活用などの可能性を議論しました。



若手分科会シンポジウムの様子

## 学会後援行事等のお知らせ

### ■ 「熊本地震・1周年報告会」(日本学術会議公開シンポジウム/第3回 防災学術連携シンポジウム)

主催:内閣府/日本学術会議/熊本県/防災学術連携体(含GISA)  
会期と会場:

2017年4月15日(土) シンポジウム(熊本県庁本館)  
意見交換会(ホテルニューオータニ熊本)

2017年4月16日(日) 視察ツアー

参加費、参加申込等詳しくは...

[http://www.gisa-japan.org/news/detail\\_1448.html](http://www.gisa-japan.org/news/detail_1448.html)

### ■ 第13回 GIS コミュニティフォーラム

主催:ESRI ジャパンユーザ会

会期:2017年5月17日(水)~18日(木)

会場:東京ミッドタウン(東京都港区)

参加費:無料・事前登録制(4月上旬登録開始予定)

詳しくは...

<http://www.esri.jp/events/gcf/gcf2017/>

### ■ IPIN2017 屋内測位と拡張現実国際会議 2017

主催:IPIN2017 実行委員会

会期:2017年9月18日(月)~21日(木)

会場:北海道大学学術交流会館

日本語でのイベントも計画中

詳しくは...

<http://www.ipin2017.org/>

## 【事務局からのお知らせ】

### ■ 2017年度年会費納入のお願い

今号は、年会費納入方法が口座振替で無い会員の方々に、2017年度分(2017年4月1日~2018年3月31日)年会費の郵便振込専用紙を同封しております。納入期限は4月30日(日)です。ですのでお早めにお手続きください。

年会費は正会員10,000円、学生会員5,000円です。

期限に遅れますと、6月発行のニューズレター102号および『GIS-理論と応用Vol.25-No.1』の送付が停止されるほか、ホームページの会員専用コンテンツの閲覧が出来なくなります。

なお、新年度から年会費の口座振替をご希望の方は、4月20日(木)までに、事務局に申込用紙をご請求ください。

### ■ 年会費口座振替ご利用の方へのお願い

2017年度分(2017年4月1日~2018年3月31日)年会費の口座引き落とし日は6月27日(火)です。口座残高のご確認をお願いいたします。

年会費は、正会員9,000円、学生会員4,000円です。

### ■ 学生会員さんへ 学生証のコピー提出のお願い

4月以降も学生の方は、新年度に入ってから学生証のコピーを事務局までご提出ください。4月30日(日)必着、FAXまたはメール添付(jpgかpdfまたは写真)でお願いします。

提出が無い場合、2017年度は学生会員としてのお取り扱いができなくなります。学生会員の方には、別途、詳細を連絡済みですので、必ずご確認ください。

※コピーは「氏名」「発行者」「有効期限」が分かるように取ってください。

※コピーの余白に「学部生」「修士課程」「博士課程」の別を明記してください。

※2016年度に提出された方も、再度ご提出ください。事務局で確認後、以前のものは既にシュレッダー裁断しています。

※学生証が4月中に発行されない場合は、その旨、事務局までご連絡ください。

### ■ 会員登録変更・退会等について

現在の会員登録の状況は、学会ホームページの会員専用ページから、ご自分で確認・変更することが出来ます。

<https://www.gisa-japan.org/member/login.php>

なお、学会web等で既にご案内のとおり、退会を希望される場合は確認事項がありますので、まずは事務局までご連絡ください。年度は毎年、4月1日から翌年3月末日までです。今年度一杯で退会希望の方は、2017年3月末日までに手続き完了が必要です。(2017年4月1日から新年度の学会費が発生します)

### ■ 測量系CPD学習プログラムのポイント付与について

今年度に引き続き、2017年度も測量系CPD学習プログラムのポイントが付与されるよう手続きをしております。

対象者は、以下の予定です。

1. 大会で講演発表またはポスター発表した者(発表者または第一著者のいずれか1名)
2. 『GIS-理論と応用』に査読付き論文が採用された者

2016年度実績は、下記のURLで確認できます。

<https://www.jsurvey-cpd.jp/pdf/programs/kyogikai/gisaja.pdf>

### ■ 『GIS-理論と応用-』特集ページ募集

地理情報システム学会では、今後、地理情報システムと地理情報科学に関する最新の学術動向や社会からの要請を踏まえ、論文集『GIS-理論と応用-』にふさわしい内容の特集ページを設けていきたいと考えています。つきましては、広く会員の皆さまより特集のアイデアを募ることといたしました。

なお、募集に際しては、募集期限は設けずに随時応募を受け付けます。ただし、応募資格者は、地理情報システム学会の個人会員に限ります。

また、応募された提案書は、編集委員会にて審査され、提案が採用された場合、応募者には臨時編集委員をつとめて頂きます。

詳しくは、下記の学会webサイトをご覧ください。

<http://www.gisa-japan.org/publications/sp.html>



2017 年 2 月末現在の個人会員 1204 名、 賛助会員 61 社

## 賛助会員

(2 口)NTT タウンページ㈱

(1 口)アクリーグ㈱, 朝日航洋㈱, アジア航測㈱, アドソル日進㈱, いであ㈱, ㈱インフォマティクス, ESRI ジャパン㈱, ㈱NTT データ数理システム, 愛媛県土地家屋調査士会, 応用技術㈱, 大阪土地家屋調査士会, オートデスク㈱, ㈱オオバ, ㈱かんこう, 関東甲信越東海GIS 技術研究会, ㈱岐阜県建設研究センター, 九州GIS 技術研究会, 協同組合くびき野地理空間情報センター, 近畿中部北陸GIS 技術研究会, ㈱こうそく, 国際航業㈱, 国土情報開発㈱, ㈱古今書院, GIS 総合研究所いばらき, ジェイアール西日本コンサルタンツ㈱, ㈱ジオテクノ関西, ㈱ジオプラン, ㈱昭文社, ㈱ジンテック, ㈱ゼンリン, ㈱ゼンリンジオインテリジェンス, ㈱谷澤総合鑑定所, 玉野総合コンサルタンツ㈱, 中四国GIS 技術研究会, テクノ富貴㈱, デジタル北海道研究会, 東北GIS 技術研究会, ㈱ドーン, 長野県GIS 協会, にいがたGIS 協議会, 日本情報経済社会推進協会, 日本スーパーマップ㈱, ㈱日本測量調査技術協会, 日本土地家屋調査士会連合会, ㈱日本地図センター, パシフィックコンサルタンツ㈱, ㈱バスコ, 阪神高速技研株式会社, 東日本総合計画㈱, 北海道GIS 技術研究会, ㈱マップクエスト, ㈱松本コンサルタント, ㈱三菱総合研究所, 三菱電機㈱, 三菱UFJ リサーチ& コンサルティング㈱, ㈱リモート・センシング技術センター

自治体会員: (1 口)経済産業省特許庁, 総務省統計局統計研修所, 長野県環境保全研究所, 福岡県直方市

## 学会分科会連絡先一覧

●自治体: 浅野和仁 (大阪府富田林市) 事務局: 青木和人 (あおきgis研究所 Tel 050-5850-3290) E-mail: kazu013057@gmail.com	●地図・空間表現: 若林芳樹 (首都大学東京 Tel 042-677-2601 ) E-mail: wakaba@tmu.ac.jp
●ビジネス: 高阪宏行 (日本大学 Tel 03-3304-2051) E-mail: kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp	●セキュリティSIG: 内布茂充 (行政書士 内布事務所 Tel 090-2284-4125) E-mail: spcn87q9@royal.ocn.ne.jp
●防災GIS: 畑山満則 (京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333) E-mail: hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp	●FOSS4G: Venkatesh Raghavan (大阪市立大学) 連絡先: 嘉山陽一 (朝日航洋㈱ TEL049-244-4032) E-mail: youichi-kayama@aeroasahi.co.jp
●土地利用・地価GIS: 碓井照子 (奈良大学) 事務局: 西端憲治 (㈱セイコム Tel 0721-25-2728) E-mail: totiriyo-sig@sei.com.jp	●若手会員分科会: 相尚寿 (東京大学 Tel 04-7136-4302) E-mail: hisaai@csis.u-tokyo.ac.jp
●時空間GIS: 吉川耕司 (大阪産業大学 Tel 072-875-3001) E-mail: yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp	●IoTとGIS: 厳網林 (慶應義塾大学 Tel 0466-49-3453) E-mail: yan@sfc.keio.ac.jp

## 地方支部の連絡先一覧

＜北海道支部＞ 支部長: 小樽商科大学 深田秀実 Tel: 0134-27-5399, E-mail: fukada@res.otaru-u.ac.jp	＜中国支部＞ 支部長: 広島修道大学 川瀬正樹 Tel: 082-830-1210, E-mail: kawase@shudo-u.ac.jp
＜東北支部＞ 支部長: 東北大学 井上亮 Tel: 022-795-7478, E-mail: rinoue@plan.civil.tohoku.ac.jp	＜四国支部＞ 支部長: 高知大学 松岡真如 Tel: 088-864-5166, E-mail: msykmktok@kochi-u.ac.jp
＜北陸支部＞ 支部長: 新潟大学 牧野秀夫 Tel: 025-262-6749, E-mail: makino@ie.niigata-u.ac.jp	＜九州支部＞ 支部長: 九州大学 三谷泰浩 Tel: 092-802-3399, E-mail: gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp
＜中部支部＞ 支部長: 中部大学 福井弘道 連絡先: 杉田暁 (中部大学) Tel: 0568-51-9894 (内線 5714), E-mail: satoru@isc.chubu.ac.jp	＜沖縄支部＞ 支部長: 琉球大学 町田宗博 E-mail: machida@ll.u-ryukyu.ac.jp 連絡先: 澤舩 直彦 (特定非営利活動法人沖縄地理情報システム協議会) Tel: 098-863-7528, E-mail: takushi@okicom.co.jp
＜関西支部＞ 支部長: 大阪工業大学 吉川眞 連絡先: 田中一成 (大阪工業大学) Tel: 06-6954-4293, E-mail: gisa@civil.oit.ac.jp	

### ■ 編集後記 ■

はじめに、今号の編集に際して不慣れなため大変ご迷惑をお掛けしました。

さて、私が、GISに関わるようになってから 20 年を迎えます。20 年前とえば、お役所ではワープロや手書図面で業務をこなし、事業のプレゼン用のパースは、CG や手書きで作成していました。傍らでは、高価でしたが、PC 機器や CAD などの業務ソフトも一般に普及してきたころでした。

昨今では、IT 関連技術の発展の恩恵を受け、様々な情報を創造的に組み合わせることで素早くお望み表現をよりリアルに安価に手に入れることができるようになりました。この 20 年間の情報技術の発展には、GISA の取り組みが大きな牽引役を果たしてきたと考えています。

一方、今日のネット社会のなか、このような情報技術 (GIS を含む) を活用して人権侵害などに利用する者も出てきています。

今後は、情報処理の限界とその影響 (光と影)、ネット社会のその行先を明らかにしていく取り組みにも期待したい。

(内布 茂充: 行政書士内布事務所)

### 地理情報システム学会ニューズレター

第 101 号 ●発行日 2017 年 3 月 25 日

### ■ 発行

### 一般社団法人 地理情報システム学会

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階

TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org

URL: <http://www.gisa-japan.org/>

### ■ 弥生雑記 ■

今号に学会設立 25 周年の記念品のマカロン型付箋を同封しました。

学会名の赤、カバーの黄緑、付箋のクリーム色は、赤・緑・白の GISA カラーになるべく近い色を選択したものです。是非、ご利用ください。

みなさまには 25 年間の感謝とともに、  
今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(学会事務局)